

トピック — 10月10日のトマトの日にちなんで、トマトランキング —

10月10日は、一般社団法人全国トマト工業会が定めたトマトの日です。そこで、今回は国内外のトマトの消費、生産に関するランキングを紹介する。

トマトは、国内の家庭で購入される野菜のなかで、年間一人当たりの購入金額が最も多い人気野菜の一つであるが、日本で食べられるようになったのは、明治時代以降と言われており、指定野菜14品目の中では日本への定着が比較的新しい野菜である。

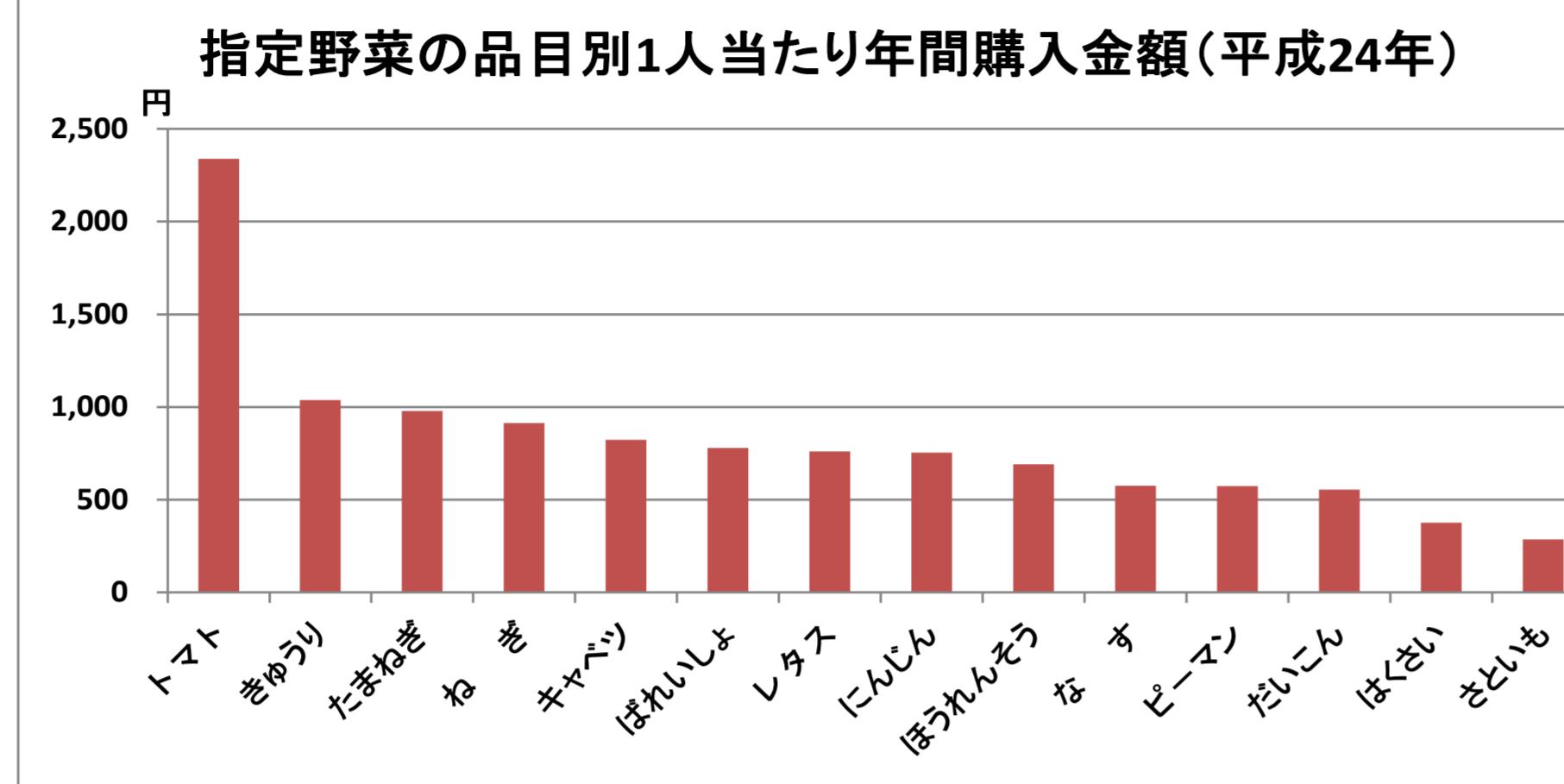
国別の消費量(一人1日当たり)をみると、リビアが最も多く(同412g)、日本(同23g、第105位)の18倍であり、中近東等の諸国でも消費量が多い傾向がある。リビアでは、トマトと牛肉を煮込んだ、ショルバというスープがよく食べられている。消費量が上位の国々では、スープや煮込みなどの料理に多く使われるのに対して、国内では生食での消費が主体である。

世界の生産量をみると、野菜の中でトマトは、ばれいしょに次いで、2番目に生産量の多い品目であり、国別では、中国が最多の5千万トンで全体の3割を占め、次いで、インド、アメリカ、トルコの順である。

国内の生産量をみると、大都市圏から遠い熊本県と北海道が第1位、第2位を占め、次いで、愛知県、千葉県、茨城県、栃木県等の大都市圏にも主産地が多い特徴がある。

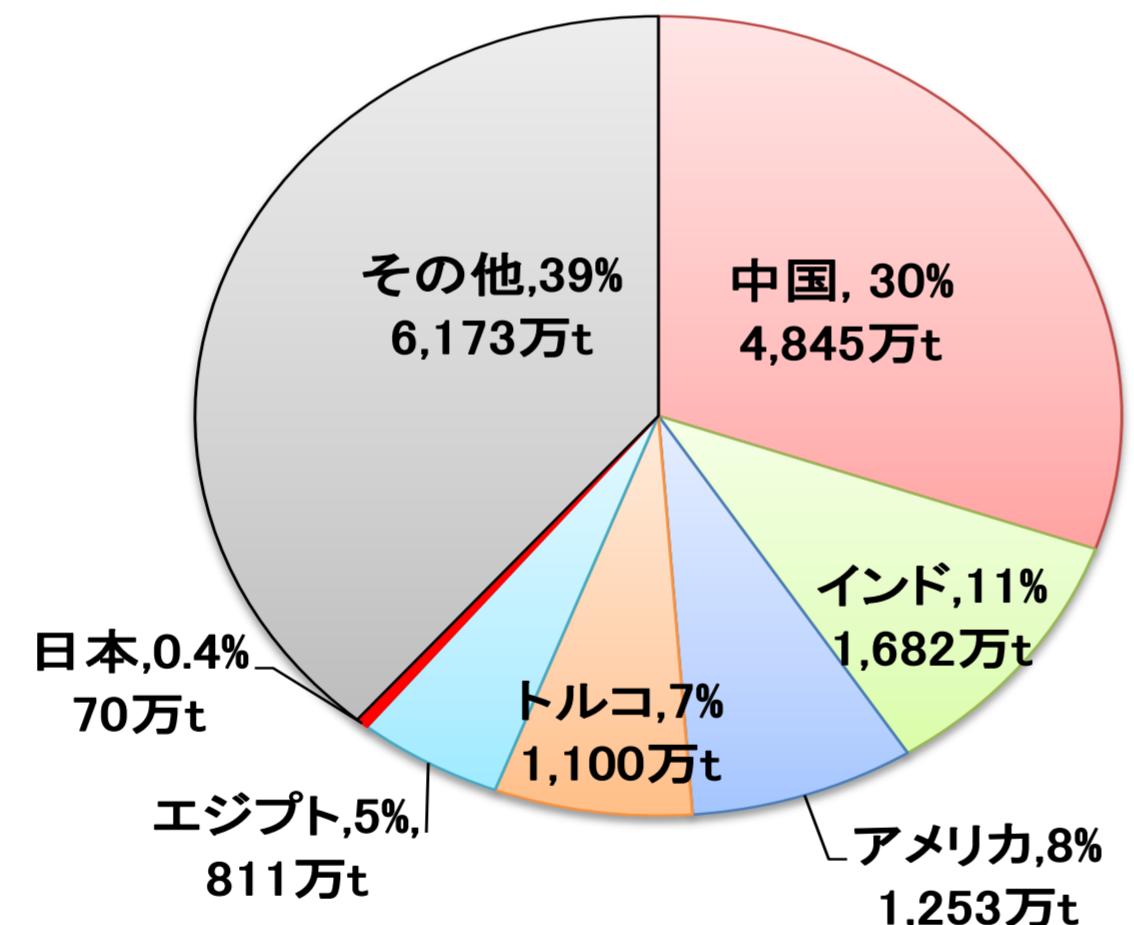
現在は、東・北日本の産地からの出荷が中心で、出荷量が平年を下回っているものの、冬春ものの主産地である熊本県や愛知県では、生育が順調であり、今後徐々に平年並みの出荷量に近づいてくると見込まれる。

(なお、直近の熊本県等のトマト主産地の生産・出荷動向(画像情報を含む)はこちらから)



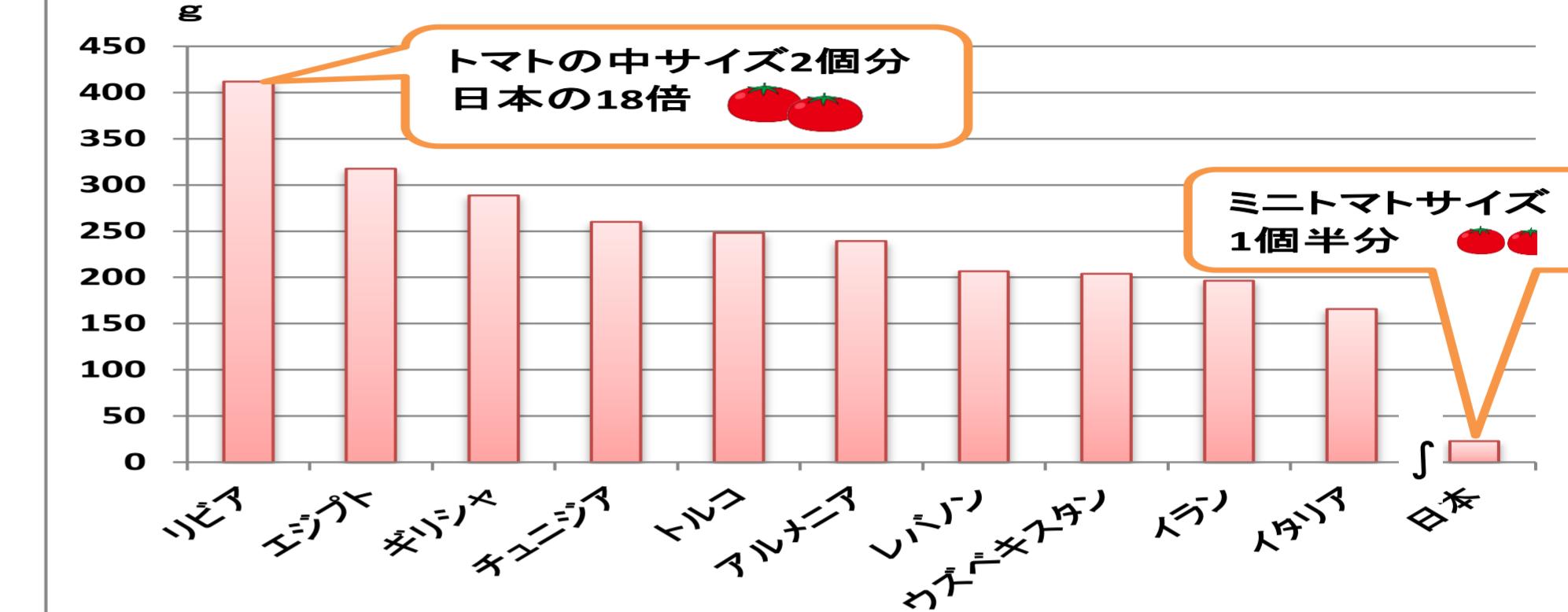
資料: 総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」

トマトの生産量(平成23年)の国別内訳 世界の生産量 15,935万トン



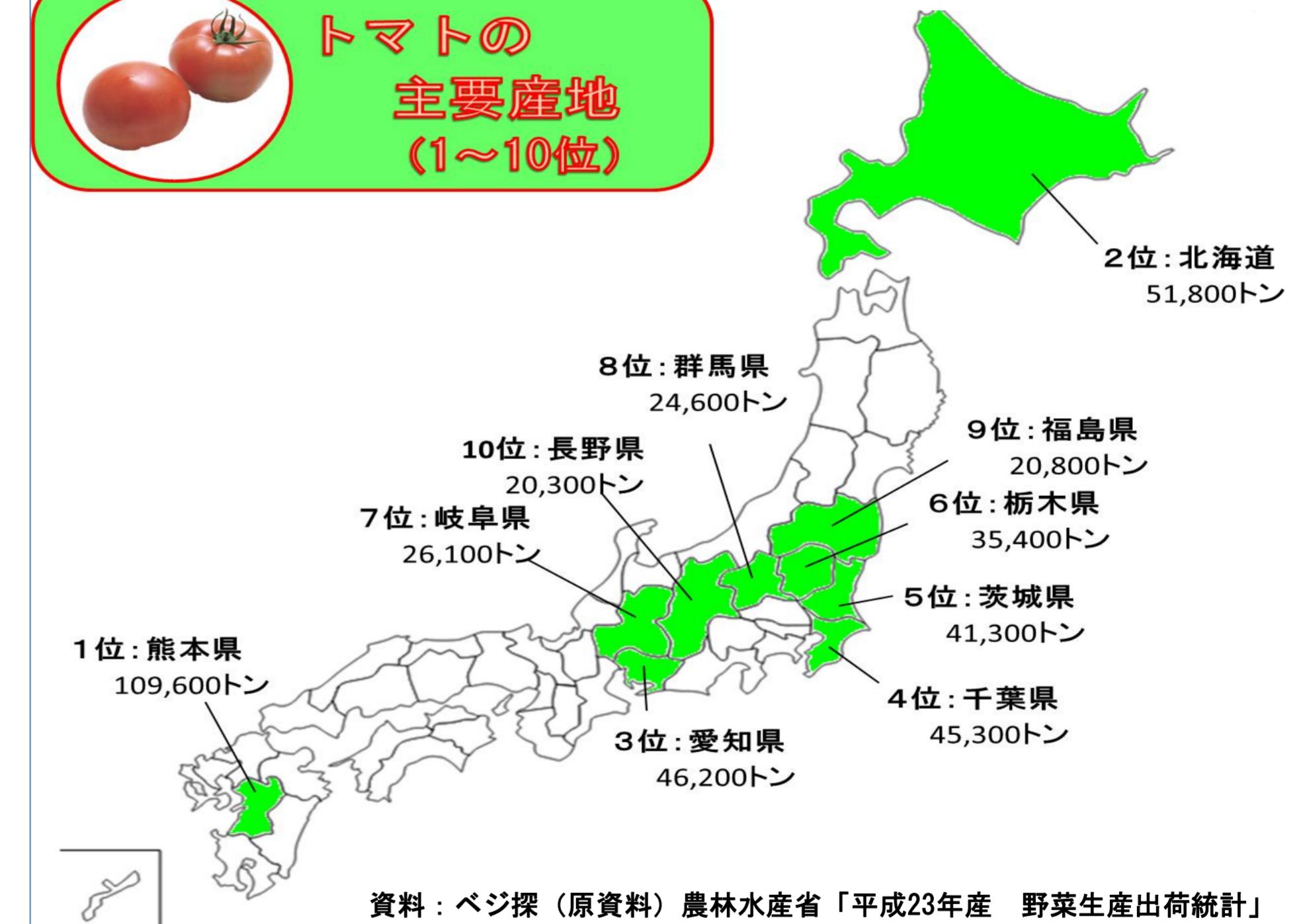
資料: FAOSTAT

1人1日当たり国別トマト消費量(平成21年)



資料: FAOSTAT

トマトの主要産地 (1~10位)



資料: ベジ探(原資料) 農林水産省「平成23年産 野菜生産出荷統計」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、斎藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。